

廃棄 PET フィルムの再利用を通したサーキュラーエコノミーへの貢献

自社製品の生産工程で廃棄されていた PET フィルムに着目し、同じく自社で使用する梱包材や、自社グループで製造する複合機・プリンターの成型部品へ転用する技術を確認し資源循環に取り組む。



* 同社では、生産工程で大量に排出されていた廃棄 PET フィルムに着目し、自社製品用の PET トレーの原料として再利用する取り組みを開始。また、グループ内企業の製品である複合機のトナーコンテナにも自社の再生材料を使用することで、グループ全体の廃棄物廃棄量の削減と同時に新品原料の使用最小化を行い、環境負荷低減に取り組む。廃棄 PET フィルムをリサイクル可能な PET 材料として複合機、プリンターの成型部品へ転用する技術は、京セラドキュメントソリューションズが業界で初めて確立した。

* セラミック製品の生産工程内で発生する廃棄 PET フィルムは、これまで焼却処理によるサーマルリサイクルに依存しており、環境負荷が高いという課題を抱えていた。自社を含め、コンデンサ等の製造を行う企業は廃棄 PET フィルムを大量に排出している現状があり、同社ではこの課題を解決すべく、グループ内で発生する廃棄 PET フィルムをアップサイクルすることに着目した。

背景・きっかけ

* 同社では、PET フィルムと同様に、製品出荷に使用する梱包用トレーの使用量が多いため、廃棄されている PET フィルムを梱包用トレーに有効活用できないかと考えた。同じく、自社グループ内で取り扱うトナーの構造材（トナーコンテナ）にも廃棄フィルムをアップサイクルして活用する取り組みを進めている。

* 2023 年度までは、サーマルリサイクルをしている廃棄物は再資源化廃棄物としていたが、2024 年度からは、サーマルリサイクルをしている廃棄物は非再資源化廃棄物として定義し、資源循環の促進や廃棄物排出削減に取り組んでいる。

【2023年度までの定義】

区分	リサイクル
再資源化	マテリアルリサイクル
	ケミカルリサイクル
	サーマルリサイクル
非再資源化	単純焼却
	埋立処分

【2024年度以降の定義】

区分	リサイクル
再資源化	マテリアルリサイクル
	ケミカルリサイクル
	サーマルリサイクル
非再資源化	単純焼却
	埋立処分

取組のポイント

▶ バリューチェーン各社と調整しながら全体最適の仕組みを模索

* リサイクルを行う過程で、収集運搬のほか破碎・洗浄などの工程が発生するため、それらの工程を担うバリューチェーン企業各社と調整しながら、経済合理性を考慮した全体最適の仕組みを構築している。

今後の展望

▶ 経済合理性も担保したサーキュラーエコノミー構築を目指す

* トレーに関しては今後使用する PET 材料の 50%に当社から再生原料を使用することを目指し、複合機関連では全体の 50%にリサイクルされた材料を使用することを目指す。

* 再生材使用の経済合理性を成立させるには一定以上のまとまった量が必要であるという認識のもと、国際基準も視野に入れながら経済合理性も担保したサーキュラーエコノミー構築を目標に取組を進めていく。

参考ページ

京セラ株式会社ニュースリリース <https://www.kyocera.co.jp/newsroom/news/2024/002569.html>

京セラ株式会社 統合報告書 2024 (https://www.kyocera.co.jp/ir/library/pdf/catalog/integrated_2024.pdf)

京セラ株式会社 HPhttps://www.kyocera.co.jp/sustainability/eco/waste_reduction.html

企業概要

京セラ株式会社

所在地 京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町 6 番地

資本金 1,157 億 300 万円

事業内容 ファインセラミック部品、半導体部品、
電子部品 等